

秋厚労ニュース

西日本の豪雨

被災地に支援を

日本医労連 定期大会

去る7月18日（水）～20日（金）、群馬県の磯部ガーデンにて、日本医労連第68回定期大会が開催され、7全国組合・47都道府県医労連から285名が参加。発言は64本あり、西日本豪雨災害の報告・教訓が目を引き、カンパ・激励メッセージの支援もありました。



災害の教訓をいかしていく

大会は、西日本豪雨災害の被害状況報告と支援の訴えから始まりました。

岡山は、「甚大な被害がでており、復旧・復興するまでには時間がかかる。メソタルヘルズ対策が課題」と発言。広島は、「土砂災害で鉄橋が流され、鉄道が寸断。通勤・通学に支障がでている。家族でバスを利用するしかないので月額数万円になり経済的に厳しい」

と報告しました。

病院の統廃合で 避難場所減った

愛媛からは、「宮城県医

労連は水をペットボトルで2万本送ってくれた」とに感謝を述べ、「豪雨時にダムの水を一気に放流したので集落が流された。これは人災だと思う。地域で病院が統廃合されたので避難場所が減った」と怒

りを込めて発言。また、「公的病院には、自衛隊がジャブジャブ水を運んでくる。それを目の当たりにし、公的病院の大切さを実感した」と話しました。

どの県医労連も、災害時に備え、「防災の知識を高める・組合員の連絡網を整備する・職員はゆとりをもった人員配置にする・医労連共済が力になる」などの教訓を参加者に伝えました。

労働組合として

地域での役割・できることとの論議を

大阪は、災害拠点病院の

が大切と話しました。

指定要件について、「飲料

大会中カンパ 激励メッセージ

水、医薬品等について、3日分程度の備蓄が必要。他にも指定要件があるのに、その補助金が50万円しかない。準備できるのか」と問題提起をしました。

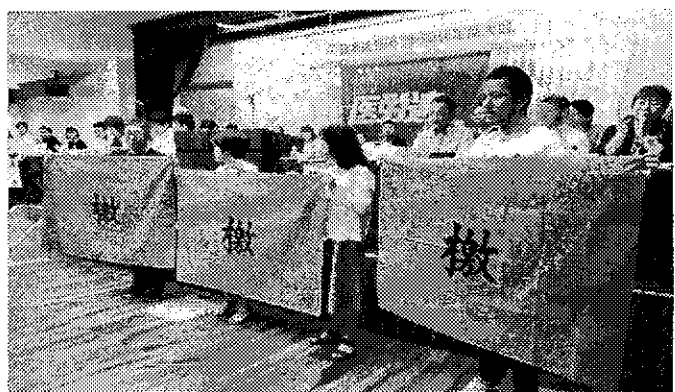
大会中、日本医労連執行部は、被災県連への支援として「カンパ」「激励のメッセージ」を提案。カンパは、

本豪雨災害で行政の対応が後手後手なので、命を守る仕事をしている我々が要望を出さなければいけない。被災県を支援していく」などが確認されました。

岩手からは、東日本大震災の教訓として、「医療費の自己負担分の削減」「県立病院の再建」など、地域から声を出していくこと

15万円を超え、激励のメッセージもビッシリと書き込まれ、岡山、広島、愛媛の3県に渡されました。討論のまとめでは、「西日

今後、秋厚労でもカンパなどを呼びかけていきます。災害の教訓をいかすため、「労働組合の地域での役割」「地域でできること」の論議を秋田でも開始する必要があります。



被災県連に激励メッセージを渡しました